



# セントポール

立教大学校友会報 ST. PAUL'S ALUMNI

発行所 立教大学校友会  
〒171-8501  
豊島区西池袋3-34-1  
電話 03(3985)2634-6  
発行人/松崎昭雄  
編集人/石崎 孟

http://www.rikkyo.ne.jp/grp/koyu/

## 第18代総長に大橋英五教授就任!

### 新総長インタビュー

押見輝男前総長の任期満了に伴い、2月10日に開催された第758回立教大学院理事会で、経済学部の大橋英五教授が立教大学第18代総長に任命され、5月26日就任しました。新総長に大学と校友会について語っていただきました。

総長就任おめでとうございます。これからの大学運営についてお聞かせください。

大学の置かれている環境が厳しいとよく言われています。社会全体では18歳人口の急激な減少の問題などが大きくクローズアップされていますが、それ以上に今の大学が社会の変化に対応で

きているかが問題だと考えます。大学と社会とのギャップについては、10年ほど前から気にかけていました。立教大学の大きな課題は「教育研究」が社会のグローバル化、あるいは社会の構造変化にきちんと対応してきたか、ということにあります。「大学の教育と研究」の意味をよく分析し、その在り方を、もう一度問うところから

スタートしたいと思っています。また、立教の独自性であるキリスト教の精神に基づく「建学の精神」に立ち返り、歴史を踏まえた上で、大学の将来構想とそれを実現していく戦略と施策を持たねばならないと考えております。

立教大学の今後の教育の展開についてどのようにお考えですか?

1990年代に、従来の一般教育に代わり「全学共通カリキュラム」をスタートさせました。そこでは、リベラルアーツ教育を「専門性に立つ教養人の育成」を目指し、位置づけました。大学の教育として重要なものは、専門性も重要ですが、専門性の基盤となる教養が、一番大切なのではないかと考えています。その教養は他者の立場や気持ちを理解する能力を、哲学、文学、歴史等に接することにより形成されるのではないのでしょうか。

現在の社会が求める学生を育てるといふ視点で、例えば弁護士や公認会計士と

いう職業であっても、相手の立場を理解し、自らの言葉で伝えられる能力を育成するようナカリキュラムの構築を意識したいと思っています。現在「全学共通カリキュラム」はセカンドステージを模索していますが、その展開を「知の内面化」、「サービスラーニング」、「異文化理解」、「大学の国際化」という視点から考えています。

校友にとって、「もう一度学ぶ」場所としての大学や大学院がクローズアップされています。大学院教育の在り方についてどのようにお考えですか?

これからの日本の大学院教育は、文科省の大学院重視政策にも支援される形で、各大学の存在価値をかけた競い合いの場になっていくでしょう。本学では、この数年で二つの独立研究科(ビジネスデザイン、21世紀社会デザイン、異文化コミュニケーションの各研究科)と専門職大学院としての法務研究科を設立しました。

教育のポイントとしては、自らを歴史の中に位置づけながらも社会の要請に対してどのように関わり、自らを自己革新していくかであり、今後は、「生涯学習社会」への対応といった視点も踏まえ、既存の大学院、研究所間の相互連携を検討し、将来的には独立研究科の研究者養成機能やラーニングの展開を含めた新しい大学院教育のあり方を提示してゆきたいと思っています。

校友会と大学の連携についてお聞かせください。

大学の最も重要な財産の一つと語る大橋総長

「校友会と大学の連携についてお聞かせください。」

大学の最も重要な財産の一つと語る大橋総長



▲2006年7月6日総長室にて

立教大学では、1990年代に、従来の一般教育に代わり「全学共通カリキュラム」をスタートさせました。そこでは、リベラルアーツ教育を「専門性に立つ教養人の育成」を目指し、位置づけました。大学の教育として重要なものは、専門性も重要ですが、専門性の基盤となる教養が、一番大切なのではないかと考えています。その教養は他者の立場や気持ちを理解する能力を、哲学、文学、歴史等に接することにより形成されるのではないのでしょうか。

現在の社会が求める学生を育てるといふ視点で、例えば弁護士や公認会計士と

いう職業であっても、相手の立場を理解し、自らの言葉で伝えられる能力を育成するようナカリキュラムの構築を意識したいと思っています。現在「全学共通カリキュラム」はセカンドステージを模索していますが、その展開を「知の内面化」、「サービスラーニング」、「異文化理解」、「大学の国際化」という視点から考えています。

校友にとって、「もう一度学ぶ」場所としての大学や大学院がクローズアップされています。大学院教育の在り方についてどのようにお考えですか?

これからの日本の大学院教育は、文科省の大学院重視政策にも支援される形で、各大学の存在価値をかけた競い合いの場になっていくでしょう。本学では、この数年で二つの独立研究科(ビジネスデザイン、21世紀社会デザイン、異文化コミュニケーションの各研究科)と専門職大学院としての法務研究科を設立しました。

教育のポイントとしては、自らを歴史の中に位置づけながらも社会の要請に対してどのように関わり、自らを自己革新していくかであり、今後は、「生涯学習社会」への対応といった視点も踏まえ、既存の大学院、研究所間の相互連携を検討し、将来的には独立研究科の研究者養成機能やラーニングの展開を含めた新しい大学院教育のあり方を提示してゆきたいと思っています。

校友会と大学の連携についてお聞かせください。

大学の最も重要な財産の一つと語る大橋総長

「校友会と大学の連携についてお聞かせください。」

大学の最も重要な財産の一つと語る大橋総長

「校友会と大学の連携についてお聞かせください。」

大学の最も重要な財産の一つと語る大橋総長

「校友会と大学の連携についてお聞かせください。」



▼「校友会は大学の最も重要な財産の一つ」と語る大橋総長



▼本館(総長作品)

木工は、子供の頃からの趣味です。物を作るというプロセスは、論文を書くプロセスと共通したところがあるのです。完成形をイメージして、構想を練って、工夫を凝らして、出来上がった時はとても楽しくなります。最近ではあまり時間がないのですが、

人間、乳幼児の頃の記憶は薄いものだが、小学校くらいのことになると断片的ながら覚えていることも多い。長男がこの春小学校に入学し、彼の毎日を追体験しているような気になつてくる。▼自分が自転車に乗れるようになったのは小学校に入る前の春休みだったから、息子も入学前には乗れるようにしたいと思ひ練習した。転んだり、うまく止められなかったりしながらも、次第にコツを覚えていく息子。「楽しい」と目を輝かせながら1回ごとに走行距離が伸びていく様子を見て、目を細めた。▼自転車に乗るようになれば、当然行動範囲も広がる。「遊びに行つてくると飛び出す息子を見ると、小学生が犠牲になる事件が頻発する昨今、親としては気が気でない。防犯ブザーを持たせても事件を未然に防ぐものではないし、過保護にはなりたくないと思ひながら、いきおい確認が外に出て、息子の所在を確認することも多くなる。▼私は17年前の大学入学時に上京してから中学入試の存在を知つて驚いたが、首都圏に住んでいては中学受験にまともに関心でもいられない。少子化をよそに中学校受験熱は上昇を続け、東京では今年の私立中学受験率が28%を超えた。大学進学には公立中高はかえって塾の費用で高つく、公立中では十分な教育を受けられない。など私立礼賛論もかまびすしいが、一方で公立の中高貫校も増えており、的確な情報収集と判断が不可欠だ。▼本音をいえば息子たちが大学だけじゃなく立教に行つてくれたら、とは思つたが、自分がそうだったようにきつと彼らも自分で考え決めた道を進んでいくのだから、そのために親としてできる最善のことをいつも考えていた。

(伊藤 正明/51社)

(宮澤 静也/平ら教育)

#### 主なニュース

- 2面 「ホームカミングデー」&「周年の集い」
- 3面 新 赤レンガ募金通信
- 5面 母校の大学院で学んでみませんか!
- 8面 「地域立教会を訪ねて」

第3回沖縄セントポールクラブ

#### 時計台

人間、乳幼児の頃の記憶は薄いものだが、小学校くらいのことになると断片的ながら覚えていることも多い。長男がこの春小学校に入学し、彼の毎日を追体験しているような気になつてくる。▼自分が自転車に乗れるようになったのは小学校に入る前の春休みだったから、息子も入学前には乗れるようにしたいと思ひ練習した。転んだり、うまく止められなかったりしながらも、次第にコツを覚えていく息子。「楽しい」と目を輝かせながら1回ごとに走行距離が伸びていく様子を見て、目を細めた。▼自転車に乗るようになれば、当然行動範囲も広がる。「遊びに行つてくると飛び出す息子を見ると、小学生が犠牲になる事件が頻発する昨今、親としては気が気でない。防犯ブザーを持たせても事件を未然に防ぐものではないし、過保護にはなりたくないと思ひながら、いきおい確認が外に出て、息子の所在を確認することも多くなる。▼私は17年前の大学入学時に上京してから中学入試の存在を知つて驚いたが、首都圏に住んでいては中学受験にまともに関心でもいられない。少子化をよそに中学校受験熱は上昇を続け、東京では今年の私立中学受験率が28%を超えた。大学進学には公立中高はかえって塾の費用で高つく、公立中では十分な教育を受けられない。など私立礼賛論もかまびすしいが、一方で公立の中高貫校も増えており、的確な情報収集と判断が不可欠だ。▼本音をいえば息子たちが大学だけじゃなく立教に行つてくれたら、とは思つたが、自分がそうだったようにきつと彼らも自分で考え決めた道を進んでいくのだから、そのために親としてできる最善のことをいつも考えていた。